

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 倉吉西高等学校

重点項目	大学進学	提出日	平成31年4月 日
------	------	-----	-----------

1 学校目標	
校訓である「立志」の精神に基づき、自らの志（使命感）を明確に持ち、将来、地域貢献及び社会貢献のできる心豊かな人財を育成する。	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>○授業改善の取組（アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業の工夫）</p> <p>○家庭学習時間の確保（学ぶことの意味の理解 主体的に学ぶ意識の高揚 「生活の軌跡」を活用した指導の充実 課題を与える学習から自主的な学習への転換）</p> <p>○校外模試成績を含めた学力の向上（センター試験演習、課外、計画的な学習課題の提示）</p> <p><数値目標></p> <p>○生徒授業アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> 肯定的評価が80%以上または、前回値より10%以上向上 <p>○家庭学習時間</p> <p>S1：2時間以上の生徒が継続して70%以上。 S2：2時間半以上の生徒が継続して70%以上。 S3：県総体後5時間以上の生徒が50%以上。</p> <p>○校外模試やセンター試験</p> <p>S1：1月進研模試3教科の平均偏差値48以上。 S2：1月進研模試3教科の平均偏差値53以上。 S3：センター試験520点以上が20名以上。 センター試験を利用した国公立現役合格者（推薦Ⅱ、A0Ⅱ、一般）20名以上。</p>	<p>○対話をとおして自身の考えを見出し表現することのできる生徒は徐々に増えてきている。</p> <p>○S1はほぼ目標を達成した。S2は考査前と普段の家庭学習の状況の落差が大きく目標の達成はかなり厳しかった。S2は夏休み以降概ね目標を達成したが、やはり出遅れ感があった。</p> <p>○校外模試・センター試験は目標を若干下回った（S2は年度途中で目標を上方修正した）。センター利用合格者数は目標を達成した。</p> <p><数値結果></p> <p>○生徒授業アンケートの肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 思考・判断・表現を求められる授業 1回目：71.3%→2回目78.0% 生徒の話す・書く機会・時間 1回目：70.3%→79.5% 問いの仕方や内容の工夫 1回目：36.6%→56.4% <p>○家庭学習時間調査</p> <p>S1：目標達成月；9月／11月 S2：目標達成月；5月／11月 S3：目標達成月；3月／7月</p> <p>○校外模試やセンター試験</p> <p>S1：1月進研模試3科平均；47.1 S2：1月進研模試3科平均；49.5 S3：センター試験520点以上；17名 センター利用国公立合格者；21名</p>

3 実施事業

【高等学校課事業】

・なし

【独自事業】

- ・大学教授等による進路講演会、事例研究会 ・進路情報誌等の購入 ・指導力向上教員研修
- ・校内授業研究会、理論研修、ICT活用 ・大山勉強合宿 ・先進校視察 ・卒業生による進路講演会
- ・長期休業課外授業 ・鳥取大学、島根大学、岡山大学オープンキャンパス ・学習リーダー養成研修
- ・英字新聞活用読解力要請講演会

4 総合所見（成果・評価）

授業アンケートについては目標を概ね達成できた。タブレット端末の活用実績が授業アンケートの数値改善に直結していると捉えている。継続的に活用拡大を推進したい。家庭学習時間についてはS2の目標設定でやや厳しすぎた感があるが、各ステージとも、生徒たちの頑張りを引き出すことはできていた。目標設定の適正化の方に課題があると捉えている。センター試験・センター利用国公立合格者も概ね目標を達成した。一方で、例年なら合格したと思われる生徒が以外にも不合格となるケースが散見された。私立大学の合格枠厳格化を受けて、受験生の動向がどのように変化するか注視していく必要を感じさせる結果でもあったと捉えている。

※枚数任意